



標準化と品質管理 全国大会 2010

■開催日：平成22年10月18日(月)・19日(火)2日間
■会場：都市センターホテル(千代田区平河町)

主催/財団法人 日本規格協会

後援/経済産業省・農林水産省・国土交通省・厚生労働省・消費者庁・日本商工会議所・公益財団法人 日本生産性本部・

日本放送協会・社団法人 日本品質管理学会・品質工学会・財団法人 日本科学技術連盟・JIS登録認証機関協議会(順不同・予定含)

大会開催のお知らせ

金融危機に端を発した世界同時不況の影響を受け、我が国経済は厳しい環境下におかれてきましたが、2010年においては、近隣諸国の著しい回復もあり、緩やかな回復基調を示しています。しかしながら、欧州の一部における財政金融問題をはじめとする懸念材料から、未だ先行きの不透明感が強いところです。一方、アジアをはじめとする新興国は高い経済成長が見込まれており、世界経済は多極化に向かっております。特にアジアは、世界の工場としての地位を着々と確立するとともに、巨大な消費市場としても大いに期待されています。このように世界経済の需要・供給構造が大きく変化する中で、我が国は、かかる変化へ対応し、持続的な発展を成し遂げるために、グローバルな視点での戦略を構築していくことが不可欠となっています。

本年度の大会は、我が国の今後の方向性、可能性を幅広い視点から考えるべく、『グローバル社会における持続的発展を目指して—変化への対応・適応から、創造へ—』と大会テーマを設定し、開催することといたしました。今後ますます重要性を増すと考えられる「安全・安心」の観点、産業活動の根本であり最重要といえる、ひとつづくりを含めた「品質」の観点、持続的発展には欠かすことのできない「環境」の観点、そして市場を制する上で経営戦略上重要な「標準」の観点を取り入れ、各企業の取組みや最新動向、戦略を紹介いたします。本大会により、わが国産業界が品質の向上やグローバル化への対応をより推進し、日本企業の国際競争力の強化、安全・安心な社会の構築の一助となることを期待しております。

実行委員会

(敬称略)

委員長/長田 洋	東京工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科 教授
委員/岩本 佐利	社団法人日本電機工業会 技術部 部長
大橋 守	社団法人日本鉄鋼連盟 標準化センター事務局 事務局長
小野 道照	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 教授
門脇 潤	株式会社日立製作所 品質保証本部 QAセンタ 主任技師
金子 憲治	有限会社サービス経営研究所 代表取締役所長
川野 洋治	社団法人消費者関連専門家会議 専務理事
小出 康彦	東日本電信電話株式会社 資材調達センタ 品質管理部門 担当課長
児島 史利	住友化学株式会社 レスポンスプルケア室 品質保証 部長
清水 茂樹	セイコーエプソン株式会社 事業基盤強化本部 CS品質保証推進部 グループリーダー
杉本 満則	日本電気株式会社 品質保証部 シニアエキスパート
高木美作恵	シャープ株式会社 CS推進本部 戦略推進室 参事
富岡 伸一	サントリービジネスエキスパート株式会社 品質保証本部 品質保証推進部 部長
長谷部光雄	のっぽ技研 代表(元(株)リコー 開発革新センター 顧問)
星川 安之	財団法人共用品推進機構 専務理事
本田 知己	新日本製鐵株式会社 技術総括部 品質保証企画グループ グループリーダー
松本 恒雄	一橋大学 大学院 法学研究科 教授
光藤 義郎	JUKI株式会社 企画本部CS・TQM推進部長
三村 光代	社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 最高顧問
宮代 修治	富士ゼロックス株式会社 変革マネジメント部 シニアエキスパート
村川 賢司	前田建設工業株式会社 顧問
山本 隆司	東京農工大学 名誉教授 国際センター客員教授
田中 正躬	財団法人日本規格協会 理事長
武田 貞生	財団法人日本規格協会 専務理事
東郷 洋一	財団法人日本規格協会 理事
中泉 純	財団法人日本規格協会 理事
上野 陽一	財団法人日本規格協会 理事

協賛団体一覧

2010.7.9現在(順不同)

一般財団法人化学物質評価研究機構	(社)日本化学工業協会	(社)日本電球工業会
化成工業協会	(社)日本環境測定分析協会	(社)日本電線工業会
紙/パルプ技術協会	(社)日本機械学会	(社)日本時計協会
(財)共用品推進機構	日本金属継手協会	(社)日本トライボロジー学会
一般社団法人軽金属製品協会	日本金属熱処理工業会	(社)日本塗料工業会
(財)建材試験センター	(社)日本経営工学会	日本内燃機関連合会
高圧ガス保安協会	(社)日本計量機器工業連合会	日本ねじ研究協会
(社)産業環境管理協会	(社)日本計量振興協会	(財)日本燃焼機器検査協会
(社)自動車技術会	(社)日本下水道協会	(社)日本配線器具工業会
(社)消費者関連専門家会議	(社)日本建材・住宅設備産業協会	(社)日本パルプ工業会
(社)情報処理学会	(社)日本航空宇宙工業会	日本プラスチック工業連盟
一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会	(社)日本工作機械工業会	(社)日本フルードパワー工業会
ステンレス協会	(社)日本工作機器工業会	(財)日本文化用品安全試験所
(社)精密工学会	日本ゴム工業会	(社)日本ベアリング工業会
(社)石油学会	(社)日本材料学会	(社)日本保安用品協会
石油連盟	(社)日本産業機械工業会	(社)日本ボイラ協会
(社)セメント協会	(社)日本産業車両協会	(社)日本防錆技術協会
全国生コンクリート工業組合連合会	(財)日本情報処理開発協会	(社)日本包装技術協会
(財)電気安全環境研究所	一般社団法人日本伸銅協会	(社)日本溶接協会
(社)電子情報技術産業協会	(社)日本水道協会	(社)日本冷凍空調工業会
(社)電子情報通信学会	(社)日本設計工学会	(社)日本ロジスティクスシステム協会
(社)電池工業会	(社)日本塑性加工学会	(社)日本ロボット工業会
(社)日本アルミニウム協会	日本暖房機器工業会	(財)バイオインダストリー協会
(財)日本ウエザリングテストセンター	(社)日本鉄鋼協会	(財)光産業技術振興協会
(社)日本エネルギー学会	(社)日本鉄鋼連盟	(社)ビジネス機械・情報システム産業協会
(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会	(社)日本鉄道車輛工業会	一般社団法人プロジェクトマネジメント学会
	(社)日本電気協会	
	(社)日本電気計測器工業会	
	(社)日本電機工業会	

標準化と品質管理全国大会 2010 プログラム

グローバル社会における持続的発展を目指して—変化への対応・適応から、創造へ—

10月18日(月)	
時間	会場
	3階 コスモスホール
11:00 12:30	工業標準化表彰式 (経済産業省主催) IEC1906賞表彰式 標準化貢献賞表彰式
12:30 14:00	昼食・休憩
14:00	標準化と品質管理全国大会 2010 主催者挨拶 財団法人 日本規格協会 理事長 田中 正躬
	特別講演Ⅰ 企業価値を高める「品質経営」 オリンパス株式会社 代表取締役社長 菊川 剛
14:05 15:05	今までの時代を築いてきた日本の「ものづくり」が揺らぎ、発展途上国は「ものづくり」の拠点から「消費市場」へとその性格、位置付けが変化している。当社は、10年後の2019年に創業100周年を迎えるに当たり「創業100周年ビジョン」を策定した。そして、当初の5年でやるべきことを「経営基本計画」で示し、そのスローガンを「グローバル化のネクストステージへ」とした。そのネクストステージへ向け、経営ビジョンや信条を大切に、「日本製＝高品質」から更に一歩進んで「世界に通用する経営の高品質化」を目指したい。
	特別講演Ⅱ 鉄道分野における国際標準化について 東日本旅客鉄道株式会社 取締役副会長 石田 義雄
15:20 16:20	世界の鉄道界において、御三家と呼ばれる巨大メーカーは、車両・信号・制御システムといった製品レベルだけではなく、その製品のメンテナンス・オペレーションの分野まで輸出の範囲を拡げている。また、これと併せ、鉄道の様々な分野における、ISO・IEC等の国際標準化作りにも力を発揮しつつある。我々は今後これとどう戦っていくか、その思いを述べてみたい。
17:00 19:00	5階 オリオン 大会懇親会

10月19日(火)					
(敬称略)					
時間	第一会場	第二会場	第三会場	第四会場	第五会場
	3階 コスモスホールⅠ	3階 コスモスホールⅡ	5階 オリオン	6階 601会議室	6階 606会議室
9:30 11:00	日産自動車における電気自動車への取り組みについて 日産自動車株式会社 フェロー(技術担当執行役員) 富田 公夫 地球温暖化の課題、世界の中で増大するエネルギー需要に対するエネルギーセキュリティの問題をこれらの自動車は考えながら人々の生活を豊かにする必要があります。 本講演では、日産自動車の環境に対する取り組みを紹介すると共に、ゼロエミッション社会実現に向けての電気自動車「リーフ」の技術解説およびその魅力について紹介いたします。	東芝テックの製品安全への取り組み～私たちの安心モノづくり～ 東芝テック株式会社 ドキュメントソリューション事業本部 環境・品質保証統括部 品質企画部 グループ製品安全担当 グループ長 根津 幸宏 私たち東芝テックは、平成21年度の製品安全対策優良企業表彰において、経済産業大臣賞を受賞いたしました。これは、リスクアセスメントを軸とした、設計段階から、万一の市場事故の発生時に至るまでの未然防止をめざしたしくみづくり、また、製品安全の専門家から、一般の従業員に至るまでの製品安全を大切にす企業文化構築が評価されたものです。こうした、当社の製品安全への取り組みの概略をご紹介します。	プロジェクトマネジメントの企業活動へのインパクト—PMの概要と国際標準化の進展が生み出すビジネスチャンス— 明治大学 政治経済学部 教授 海野 素央 コミュニケーションの質は、品質の向上と結びついています。そこで、本講演では、まず、米下院監視・政府改革委員会で開催されたトヨタ公聴会における豊田章男社長とタウンズ委員長(民主党・ニューヨーク州)の質疑応答を異文化的視点から分析し、コミュニケーション・スタイルの相違を理解します。さらに、豊田社長と同委の委員との質疑応答も検討することにより、効果的なコミュニケーションの仕方について学習します。	異文化対応のマネジメント 明治大学 政治経済学部 教授 海野 素央 コミュニケーションの質は、品質の向上と結びついています。そこで、本講演では、まず、米下院監視・政府改革委員会で開催されたトヨタ公聴会における豊田章男社長とタウンズ委員長(民主党・ニューヨーク州)の質疑応答を異文化的視点から分析し、コミュニケーション・スタイルの相違を理解します。さらに、豊田社長と同委の委員との質疑応答も検討することにより、効果的なコミュニケーションの仕方について学習します。	REACH規則に基づく新たな製品情報流通基盤の整備 三井化学株式会社 レスポシンプル・ケア部 主席部員 REACHチームリーダー 荒柴 伸正 2007年6月に発効したREACH規則は、欧州域外の産業界にも多大な影響が及び、適切に取り組む必要がある。特に欧州域外の事業者が在欧の代理人を介して登録した場合には、登録時および登録後も製品等に関わる情報を常に最新版に更新・維持する必要がある。本講演では、REACH規則に基づくこうした製品に関わる情報の更新・維持に不可欠なサプライチェーン上の情報交換の必要性と、その情報流通基盤整備の現状について解説する。
11:15 12:45	技術と知財に勝り国際標準化を主導する日本がなぜグローバル市場で勝てないのか—アジアの成長と共に進む日本型国際標準化の構築に向けて— 東京大学 知的資産経営・総括寄付講座 特任教授 小川 紘一 欧米が繰り出す国際標準化は、アジアの成長を取り込む重要な政策ツールや経営ツールに位置付けられています。その背後にオープン分業型への産業構造転換があり、これ呼応したアジア諸国の政策転換がありました。日本型のものづくり経営がここから歴史的な転換期に立ち、技術や知財で勝っても事業で勝てなくなったのです。これらの事実を内外の事例で紹介し、日本企業が構築し得る勝ちパターンを国際標準化の視点からお話します。	味の素における食の安全への取り組み 味の素株式会社 執行役員 品質保証部長 木村 毅 食に関するお客様の意識は、過去10年であつてないほどの大きな変容を遂げ、企業側にも変革が求められています。お客様に信頼していただくためには、企業が一方的に安全を訴えるだけでなく、安心していただける状況をいかに構築できるかが重要になってきています。当社における取り組みを、品質保証体制、お客様とのコミュニケーションなどの観点から事例を交え紹介します。	世界水ビジネスへの標準化アプローチ グローバルウォータ・ジャパン 代表 吉村 和就 水が他の工業製品と同じように経済財になり水ビジネスが世界的規模で拡大している。水事業が世界的規模で展開されると、そこには世界的な統一された基準が必要になる。既にISO/TC224やWTOのTBT協定にて世界の水ビジネスが規定され、さらにウォーターフットプリントという概念で、国際的に規定されようとしている。その現状と日本が今後、取るべき標準化対策について述べる。	JISマーク表示制度、適合性評価と認証取得工場における品質管理責任者の役割 財団法人日本品質保証機構 理事兼 JIS認証事業部長 矢野 忠行 JISマーク表示製品の高品質を維持し、使用者・消費者の安全・安心を担保するうえでJIS認証取得工場での品質管理責任者の役割は極めて大きいものがある。登録認証機関が実施する適合性評価について、品質管理体制の審査の基準を通して解説するとともに品質管理責任者の責務やその選任のあり方について提示する。また、JIS認証取得事業者の認証維持の心得を、品質管理者の役割に焦点をあてながら紹介する。	消費者行政の課題と取組みについて 消費者庁 審議官 羽藤 秀雄 消費者の視点に立って消費者行政を一元的に進めるために消費者庁が昨年9月に発足しました。消費者庁は消費者の権利の尊重と自立の支援という基本理念のもと、消費者の安全と安心の確保を中心とする諸課題に取り組んでいます。この取組みを実りあるものとしていくためには、標準・規格などにおける事業者・団体の取組みもまた不可欠です。消費者行政の課題と取組みについて、参加者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。
12:45 13:45			昼食・休憩		
13:45 15:15	マツダにおける品質工学への取り組み マツダ株式会社 常務執行役員 龍田 康登 マツダは、過去15年来、品質工学に取り組み生産技術部門が2006年栄えある第一回「田口賞」を受賞した。「田口賞」受賞に至った取り組み状況を、マツダ内への品質工学展開の背景、展開経過、現在の取り組み・活用状況、実際の生産技術開発・工法開発・品質開発等の活動事例についての説明を中心に報告するとともに、品質工学の組織的展開、今後の方向について紹介する。	スマートグリッドの国際標準化活動 九州大学 大学院システム情報科学研究院 電気システム工学部門 教授 合田 忠弘 今、世界的に注目を集めているスマートグリッドは、そのシステム開発と同時進行で国際標準化活動が進められている。標準化活動は、米国のNISTを中心とするグループと欧州のIECを中心とするグループで実施されている。本講演では、今後のグローバル社会におけるビジネス展開での国際標準の重要性を紹介すると共に、IECでの標準化活動の状況及び日本の活動状況に関して紹介する。	コーチングによるリーダーシップ開発—組織の生産性を高める— 株式会社コーチ・トゥエンティワン 取締役社長 桜井 一紀 スピードと変化が重視される時代に組織が成長し続ける鍵は、社員一人ひとりが日々リーダーシップを開発し、周囲に影響力を及ぼし続けられるかどうかにあります。自ら考え行動する人材を育てるコーチ型リーダーシップとは何か、なぜそれが成果をあげるのか、また、実際にコーチ型リーダーを組織的に育成することで、めざましい組織改革を進めている企業事例をご紹介します。	新興市場向け商品の商品企画と品質保証 神戸学院大学 経営学部 教授 今野 勤 新興国では、低価格でソコソコ品質の製品がシェアを広げる中、高価格/高品質の日本製品が苦戦を強いられている。低価格とソコソコ品質のバランスをどう確保し、商品の品質保証をどこまで進めていけばよいか、悩める日本企業(メーカー)のヒントとなれば幸いである。	我が国の工業標準化政策について(仮題) 経済産業省 産業技術環境局 講演内容策定中
15:15 17:00	リスクアセスメントを活かす—ISO 31000を踏まえた事業リスク管理の実践— 株式会社三菱総合研究所 先進ビジネス推進センター 安全戦略マネジメントグループ主任研究員 丸貴 徹庸 企業経営上の意思決定を行うために、リスクの特定・分析・評価は欠かせないプロセスとなっています。効果的なリスクマネジメントを実現するための実践的技巧として、意思決定のプロセスや判断基準など組織の取り組むべき水準や、事業評価の具体的なアプローチについて、2009年11月に発行されたリスクマネジメント規格ISO 31000を踏まえながら、事例を織り交ぜて紹介します。	「危機の経営」グローバル市場を見据えたものづくり～韓国サムスン電子の躍進から学ぶ～ 東京大学大学院経済学研究科 ものづくり経営研究センター 特任研究員 吉川 良三 リーマンショックに端を発した世界的な金融危機に見舞われるまでは、日本の製造業の「ものづくり」はそれなりに世界の製造業のお手本として学ばれる立場でありました。しかし、今日のグローバル化とデジタル化の波は日本企業の国際競争力の低下(24位)を招き、一人当たりGDPも19位と低迷させる大きなうねりとなって襲ってきました。それに対して韓国のサムスン電子の利益は金融危機前に急回復し、株式時価総額はソニー、パナソニック、東芝の3社合計値に匹敵するほど急成長を遂げました。そこで、過去の成功体験にしがみついてじっと景気が良くなるのを待っているより、一度振り返って韓国に学ぶ姿勢が必要だと思います。過去のしがらみや、固定概念に固められた卵の殻は自ら割らなければ命をもった鳥にはなりません。	リコーグループの環境経営 株式会社リコー 理事 社会環境本部長 谷 達雄 リコーグループは、持続可能な社会のあるべき姿を描き、そこに向かって、変化する社会の中で発展することを目指しています。2050年迄に環境負荷を2000年度比1/8にする長期目標と共に、それを実現するための2020年、および3年後の目標を設定し、その達成を通じて経済価値を高める「環境経営」を進めています。こうした考え方のもと、製品の原材料調達から輸送、お客様の使用時、使用後に至るまでの環境配慮の活動事例をご紹介します。	使用者の教育だけでは済まない誤使用事故—R-Mapを活用して分析— 日科技連R-Map実践研究会統括主査 PSコンサルタント(NITE技術顧問) 松本 浩二 世界の安全規格の頂点に立つISO/IEC Guide 51:1999(JIS Z 8051:2004)は、1990年に初版が制定され、世界にリスクアセスメントの波を起きました。その中に、「合理的に予見可能な誤使用」を明確にし、リスクを許容可能なレベルまで低減するという要求が入っています。この要求事項をR-Mapを使用して「見える化」します。	平成21年度 研究助成成果報告講演
			昼食・休憩		
				新興市場向け商品の商品企画と品質保証 神戸学院大学 経営学部 教授 今野 勤 新興国では、低価格でソコソコ品質の製品がシェアを広げる中、高価格/高品質の日本製品が苦戦を強いられている。低価格とソコソコ品質のバランスをどう確保し、商品の品質保証をどこまで進めていけばよいか、悩める日本企業(メーカー)のヒントとなれば幸いである。	我が国の工業標準化政策について(仮題) 経済産業省 産業技術環境局 講演内容策定中
				使用者の教育だけでは済まない誤使用事故—R-Mapを活用して分析— 日科技連R-Map実践研究会統括主査 PSコンサルタント(NITE技術顧問) 松本 浩二 世界の安全規格の頂点に立つISO/IEC Guide 51:1999(JIS Z 8051:2004)は、1990年に初版が制定され、世界にリスクアセスメントの波を起しました。その中に、「合理的に予見可能な誤使用」を明確にし、リスクを許容可能なレベルまで低減するという要求が入っています。この要求事項をR-Mapを使用して「見える化」します。	小集団活動における組織能力の形成 東京工業大学大学院 インノベーションマネジメント研究科 教授 長田 洋
				使用者の教育だけでは済まない誤使用事故—R-Mapを活用して分析— 日科技連R-Map実践研究会統括主査 PSコンサルタント(NITE技術顧問) 松本 浩二 世界の安全規格の頂点に立つISO/IEC Guide 51:1999(JIS Z 8051:2004)は、1990年に初版が制定され、世界にリスクアセスメントの波を起しました。その中に、「合理的に予見可能な誤使用」を明確にし、リスクを許容可能なレベルまで低減するという要求が入っています。この要求事項をR-Mapを使用して「見える化」します。	基盤技術を支える若手技術者・学生のための教材開発 宮城教育大学 教育学部技術教育講座 教授 小野 元久

※講演者・講演テーマ・会場は、都合により変更する場合があります。最新のプログラムは当会ウェブサイト(www.jsa.or.jp)をご参照ください。

参加申込要領

【期間】 10月18日(月)・19日(火) 2日間

【会場】 都市センターホテル
(東京都千代田区平河町2-4-1)

【参加料】

I. 維持会員にご加入いただいている場合

- ①. 維持会員特典として1口につき1名様を無料で招待しております。無料招待券でのご参加は、7月下旬～8月上旬頃に送付いたします維持会員無料招待券をご利用ください。
- ②. 無料招待券以外でのお申込みの場合は有料となります。裏面申込書にてお申込みいただきますと維持会員特別割引価格(一般有料2日券10,500円の半額)が適用されます。

◆維持会員有料2日券 5,250円(資料代・消費税含む)

II. 一般申込み(維持会員以外のお客様)の場合

一般申込みのお客様には一般有料2日間券(18日・19日両日参加可能)と、一般有料1日券(18日または19日の参加)をご用意しております。

◆一般有料2日券 10,500円(資料代・消費税含む)

◆一般有料1日券 5,250円(資料代・消費税含む)

※一般有料1日券はお申込み時に参加日をご指定いただきます。

【申込み方法】

裏面申込書にご記入の上、FAXまたは郵送でお申込みください。後日、参加券・請求書を送付いたします。

【ご案内】

1. 講演資料は当日受付にてお渡しいたします。
※大会受付：3階コスモスホールにお越しください。
2. お申込み多数の場合には、先着順とさせていただきますので、お早めにお申込みください。
3. 参加料は欠席されても原則として返金いたしませんので予めご了承ください。
4. 振込手数料は貴社にてご負担ください。
5. 他のセミナー受講料等の請求書を一括して送金される場合は、恐れ入りますが送金内訳をご連絡ください。

【お問合せ先】

(財)日本規格協会 普及事業本部
標準化と品質管理全国大会 事務局
〒107-8440 東京都港区赤坂4-1-24
TEL: 03-3583-8008
FAX: 03-3582-0698

維持会員制度のご案内

—日本規格協会が取り組む標準化の推進活動をご支援いただけませんか?—

標準化とは、皆様のビジネス活動の効率化、円滑化、安定した発展をもたらすために、また、私たちの生活にさらなる安心、安全、安定をもたらすために、必要不可欠なことです。そしてこうした標準化の恩恵とは、出来るだけ幅広く多くの方々にもたらされるものでなければなりません。

私どもはこうした認識のもと、標準化の推進を図ることを通じて、産業の健全な発展と、豊かな社会生活の向上に貢献することを目的として、1945年に設立された公益法人です。

維持会員制度は、こうした当協会の事業目的に対してご理解いただける方に、維持会員としてご加入いただき、私どもが取り組む標準化推進活動をご支援いただくための制度です。

当協会は会員の皆様とのコミュニケーションを深め、会員の皆様から、より一層のご支援が得られるような活動に取り組んでまいります。皆様の維持会員制度へのご参加を、お待ち申し上げております。

◆会費 一口につき年額2万円

◆入会資格

所定の会費をお支払いの方は、法人・個人を問わずご加入になれます。なお法人の場合、原則として加入申込書にご記入の所在地と同一の事業所が、会員の資格を有します。

◆会員の資格期間

ご加入の時点から、その年度の末日(3月31日)までです。特典(会員サービス)の取扱期間も同様です。なお、年度途中で退会された場合でも会費の返還は行いませんので、ご注意ください。

◆維持会員の特典

1. 特別割引にて規格のご購入をしていただけます。
2. 国内外の最新の標準化情報をご参照いただける月刊誌を毎月お届けいたします。
3. 当協会主催の品質管理及び標準化に関する講習会・セミナーが、特別割引にてご参加いただけます。
4. 当協会主催の「標準化と品質管理全国大会」、「標準化地区大会」に1口につき1名様を無料でご招待いたします。
5. JSA Web Storeの会員専用サービスをご利用いただけます。

◆お問い合わせ先

普及事業本部 出版サービス第一課
E-mail: csd@jsa.or.jp TEL: (03) 3583-8002

⇒詳細はWEBをご覧ください。 <http://www.jsa.or.jp/>

お申込み受付

FAX : 03-3582-0698

財団法人 日本規格協会 普及事業本部

標準化と品質管理全国大会事務局 行

〒107-8440 東京都港区赤坂4-1-24 TEL : 03-3583-8008

維持会員番号:	コード: C0Q300 (-) C0Q301 (N)	発送日
会社名	所在地 〒	
会社概要: 従業員約 [] 名 業種 (又は主要製品名):	TEL	FAX
派遣責任者	所属・役職	
e-mail		

- ◆お申込みいただく参加券の種類に○をつけてください。(価格は全て税込価格です。)
- ◆維持会員有料2日券、一般有料2日券、一般有料1日券(18日)をお申込みの場合は懇親会参加の有無についてもご記入ください。
※懇親会は参加費が1名様につき2,000円(税込)別途かかります。お支払いは当日懇親会会場で承ります。
- ◆維持会員無料招待(1口1名様)のお申込みについては、この申込書ではできません。別途無料招待券のお申込みが必要となります。(7月下旬~8月上旬に送付予定)

受講番号	フリガナ 氏名	所属・役職	維持会員 有料2日券	一般有料参加申込み			懇親会 参加 (18日) ※当日お支払
				一般有料 2日券	一般有料 1日券 (18日)	一般有料 1日券 (19日)	
			5,250円	10,500円	5,250円	5,250円	2,000円
			5,250円	10,500円	5,250円	5,250円	2,000円
			5,250円	10,500円	5,250円	5,250円	2,000円
			5,250円	10,500円	5,250円	5,250円	2,000円

派遣責任者に送付 受講者に送付
 受講券の送付先 その他()
 ※その他をお選びの場合は、送付先住所・担当者名をご記入ください。

(注) 1: 太枠の中のみご記入ください。5名様以上のお申込の場合は、この申込書をコピーの上ご記入ください。
2: ご記入いただきました個人情報に基づき、当協会からセミナーや書籍等の各種ご案内を送付させていただく場合がございます。

アンケートのお願い

- ◆各講演の参加予定状況を把握するため、講演時間帯ごとに参加を希望される講演に○をご記入いただきますようお願い申し上げます。
- ◆このアンケートは各講演の参加申込み・予約ではありません。当日は会場をご自由にお選びいただけます。

月日	時間	講演タイトル	チェック欄
10/18	14:05-15:05	企業価値を高める「品質経営」	○
	15:20-16:20	鉄道分野における国際標準化について	○
10/19	9:30-11:00	日産自動車における電気自動車への取り組みについて	○
		東芝テックの製品安全への取り組み～私たちの安心モノづくり～	○
		プロジェクトマネジメントの企業活動へのインパクト -PMの概要と国際標準化の進展が生み出すビジネスチャンス-	○
		異文化対応のマネジメント	○
		REACH規則に基づく新たな製品情報流通基盤の整備	○
	11:15-12:45	技術と知財に勝り国際標準化を主導する日本がなぜグローバル市場で勝てないのか -アジアの成長と共に歩む日本型国際標準化の構築に向けて-	○
		味の素における食の安全への取り組み	○
		世界水ビジネスへの標準化アプローチ	○
		JISマーク表示制度、適合性評価と認証取得工場における品質管理責任者の役割	○
		消費者行政の課題と取り組みについて	○
13:45-15:15	マツダにおける品質工学への取り組み	○	
	スマートグリッドの国際標準化活動	○	
	コーチングによるリーダーシップ開発 -組織の生産性を高める-	○	
	新興市場向け商品の商品企画と品質保証	○	
	経済産業省講演 我が国の工業標準化政策について(仮題)	○	
15:30-17:00	リスクアセスメントを活かす -ISO 31000を踏まえた事業リスク管理の実践-	○	
	『危機の経営』グローバル市場を見据えたものづくり ~韓国サムスン電子の躍進から学ぶ~	○	
	リコーグループの環境経営	○	
	使用者の教育だけでは済まない誤使用事故 -R-Mapを活用して分析-	○	
	平成21年度研究助成成果報告講演 ●小集団活動における組織能力の形成 ●基盤技術を支える若手技術者・学生のための教材開発	○	

会場案内・交通案内



都市センターホテル

〒102-0093東京都千代田区平河町2-4-1
TEL:03-3265-8211(代) <http://www.toshicenter.co.jp/>

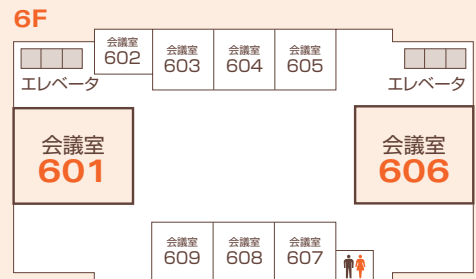
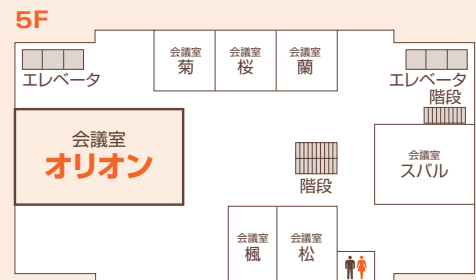
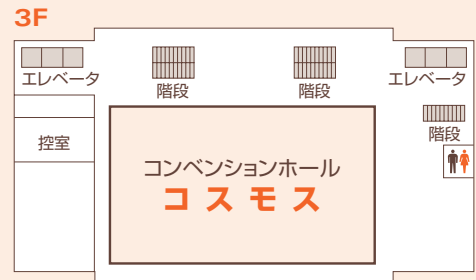
交通機関

- 東京メトロ有楽町線・「麹町駅」 半蔵門方面1番出口より徒歩4分
- 東京メトロ有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」 9b番出口より徒歩3分
- 東京メトロ丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」 D出口より徒歩8分
- JR・中央線「四谷駅」 麹町出口より徒歩14分
- 都バス 平河町2丁目「都市センター前」下車(新橋駅～市ヶ谷駅～小滝橋車庫前)
- 車 首都高速、霞ヶ関出口より5分

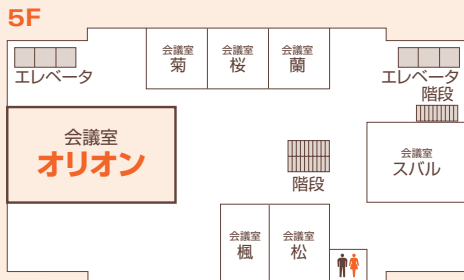
講演会場案内図

(都市センターホテル)

大会受付:3階コスモスホールにお越しください。
講演資料をお渡しいたします。



大会懇親会案内



- 10月18日(月)の講演終了後、17:00より5階オリオンにて大会懇親会を開催いたします。
- 参加ご希望の方は事前登録をいたしますので申込書の該当箇所にチェックをお願いいたします。
- 参加費の2,000円(税込)は別途直接会場でお支払いください。

標準化と品質管理地区大会2010 開催スケジュール

北海道地区大会

10月22日(金) 札幌市
北海道経済センター 8階Aホール
札幌支部 TEL.011-261-0045

中国地区大会

10月21日(木) 広島市
広島県民文化センター
「鯉城会館」大ホール
広島支部 TEL.082-221-7023

東北地区大会

10月27日(水) 仙台市
イズミティ21小ホール
東北支部 TEL.022-227-8336

四国地区大会

10月21日(木) 高松市
高松商工会議所会館 大ホール
四国支部 TEL.087-821-7851

中部地区大会

11月 2日(火) 名古屋市
メルパルク名古屋
名古屋支部 TEL.052-221-8316

九州地区大会

10月28日(木) 福岡市
都久志(つくし)会館 ホール
福岡支部 TEL.092-282-9080

近畿地区大会

10月28日(木) 大阪市
メルパルクOSAKA
メルパルクホール
関西支部 TEL.06-6261-8086

沖縄地区大会

10月29日(金) 那覇市
沖縄産業支援センター 1階ホール
本 部 TEL.03-3583-8008

※お申込は、当協会本部・各支部にお問い合わせください。